

平成29年度実施事業

協働事業報告会

◆開催日 平成30年5月19日（土）

◆会場 ひらつか市民活動センター

目次

- スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 協働事業報告書
 - ①不登校・ひきこもり改善・自立支援事業・・・・・・・・・・P2
 - ②ひらつか市民活動センター協働運営事業・・・・・・・・・・P24

平成29年度実施協働事業 報告会

●開催日：平成30年5月19日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時間	内容
10:30	協働事業報告会開会 <ul style="list-style-type: none">・協働事業審査会委員長あいさつ・協働事業審査会委員紹介・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）
10:40	1. 平成29年度実施事業の報告（プレゼンテーション） <p>※各事業ごとに報告発表（8分：団体4分、行政4分） 審査員からの助言等（5分）</p> <ul style="list-style-type: none">◆市民提案型協働事業<ul style="list-style-type: none">①不登校・ひきこもり改善・自立支援事業◆行政提案型協働事業<ul style="list-style-type: none">①ひらつか市民活動センター協働運営事業 2. 委員長総評
11:30	閉会予定

平成 29 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長殿

団 体 名	特定非営利活動法人ぜんしん	
団体代表者	柳川 涼司	印
事業担当課名	健康・こども部 青少年課	
事業担当課長	篠崎 光徳	印

平成 29 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成 28 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	226,642 円	内 訳	市の支出 211,000 円 ----- 団体の支出等 15,642 円
事業の概要	<p>本事業では、平塚市と NPO 法人ぜんしんが協力し、ゲームやネット依存などにより不登校・ひきこもりに陥り、悩んでいる当事者親子が集い、相談等が出来るフリースペースを平塚市青少年相談室に開設する。</p> <p>フリースペースにおいて子どもは、NPO 法人の元当事者や他の参加者とゲーム等の遊びを交えて、外出の機会を得る。</p> <p>また、保護者は、市の相談員及び NPO 法人の元当事者等が相談に応じ、挫折や回復の体験談の提供や支援機関等の情報提供を実施することで、自立に向かう為の支援を行うものとする。</p>		
具体的な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日時：[第 1 回目] 平成 29 年 6 月 3 日(土)、10時から18時10分 [第 2 回目] 平成 29 年 9 月 16 日(土)、10時から17時 [第 3 回目] 平成 29 年 11 月 18 日(土)、10時から17時 [第 4 回目] 平成 30 年 1 月 20 日(土)、10時から17時 ・ 実施場所：平塚市青少年相談室(平塚市見附町 15 番 1 号 市民センター2 階) ・ 参加者数：[第 1 回目] 9 名 [第 2 回目] 4 名 [第 3 回目] 16 名 [第 4 回目] 8 名 ※述べ参加人数：37 名 ・ 活動内容：青少年相談室管轄の 3 部屋に加え、同センター内文化サロン、市の相談員と団体スタッフが、各参加者に対して、個別相談や意見 交換等に応じた。 <p>※詳細については、別紙参照</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H29 年・1 回目)」実施報告書

- 【日 時】平成 29 年 6 月 3 日(土) 10 時から 18 時 10 分
 【場 所】平塚市青少年相談室 (平塚市見附町 15 番 1 号 市民センター2 階)
 【出 席 者】青少年相談室：5 名 / NPO 法人ぜんしん：5 名(ボランティアを含む)
 【参 加 者】9 名
 【主な活動内容】青少年相談室管轄の 3 部屋に加え、同センター内文化サロン(なでしこ)を利用し、市の相談員と団体スタッフが、以下の通り、各参加者の相談に応じた。

1) 市の相談員やぜんしんの元当事者相談員による相談

- a)病など複雑な事情を抱える大学生のお子さんの相談で来られた親御様は、市とぜんしんの相談員との相談を経て、当事者の気持ちや親としての心持ちに新たな気づきを得ることができた。その後、ぜんしんのスタッフや参加者らとの交流にも遠慮がちなながらも参加され、帰り際には「みんなの笑顔が見れて、こんなふうになれば良いと目標ができました」と前向きな発言をされていた。
- b)高校時代の経験から人間不信に陥り、大学を中退してしまった若者の相談に、市の相談員とぜんしんのスタッフが応じた。当事者との相談においては趣味の話で打ち解け合い、ざっくばらんに話をする事ができ、「劣等感や不満を乗り越えてきた人の話を聞きたい」という相談者の望みに応えられた。同じような境遇を経てきた者同士のシンパシーがあり、複雑な心の内を語ってもらうことができた。

2) ぜんしんの元当事者スタッフたちとの意見交換、カードゲームなど

- a)意見交換・交流の場においては、参加者同士が電子ゲームの操作方法を教え合ったり、カードゲームのやり方(手本)を見せる等、コミュニケーションを苦手としながらも積極的に他者と交流する姿が見られた。また、就職活動についての情報交換や苦労話などもあり、堅苦しくない自然な意見交換ができていた。
- b)今回、新たな試みとして、絵が上手な参加者がいることもあり、「お絵かき」の時間を設けた。若年層向けのレクリエーションとして用意したが、対象となる若者が訪れることがなかった為、スタッフや参加者でテーマを決めて絵を描いた。それぞれが特徴ある絵を描き、笑いがこぼれ、楽しい時間を過ごせた。

【「反省会・振り返り」内容のまとめ】

- 1)従来の会場がやや狭いとの声もあり、今回から青少年相談室の協力により市民センター内の「なでしこ」という部屋を使用できることになった。広々とした部屋は開放感があり、参加者からも好評だった。ただ、同センター内で他の活動に参加している方々が当該事業の部屋を入口から覗き込んでしまうことが多々あり、本事業の参加者が快く思っていないことが分かった。本事業の利用者以外が入口から覗き込むことがないように「ホワイトボード」などを衝立として利用する案が出た。
- 2)また、個別相談を行う部屋を除き、フリースペースとなる会場が二手に分かれていた。片方の会場に団体スタッフが集中してしまった際、もう一方の会場において市に職員が新規来訪者への受付を行うほか、ご協力いただき、心強かった。
- 3)平塚駅南口通路に掲示された「ポスター」は非常に目立ち、通行人の目を引いていた。実際に、「ポスターを見たから相談に来た」という参加者もあり、デザインを大きく変えた新ポスター(パンフレット)は一定の効果があつた。ただし、本来の趣旨として青少年を誘引するという目的があつたが、それを今回は、果たせなかった。

- 4)昨年度(平成 28 年 11 月)の事業実施日と同様に、今回も閉会間際に相談したいという参加者がおり、閉会および反省会等の開始時刻が大幅にずれ込んだ。この件に関して、いくつかの対応案が出たものの、「閉会までに受付を済ませた参加者に対しては、相談に応じていく」との結論に至った。また、ボランティアスタッフ等の参加者に対しては、時間通りに閉会する旨を改めて確認した。

【問題点・今後の課題】

- 1)参加者から、「街の西側(市民センター方向)は来にくい」、「入り口がいくつもあって分からない」、「入るのに勇気がいる」等の意見があった。開催地に関しては、対応が難しいと思われるが、建物内部の案内表示については、「立て看板」と「貼り紙」を複数個所に設置し、今後は、より参加者が会場に入りやすいように工夫を施していきたい。
- 2)事業の本来のターゲットである青少年(20 歳未満)の参加がなかった。本年度から「パンフレット」ならびに「ポスター」を若年層の興味を引くデザインに刷新し、市内の各学校ほかへ周知を行ったが、結果に結びつかなかった。より長期的な視野に立ち、地道な広報活動を行っていきたい。また、意見交換・交流の場においては、若年層向けのコンテンツを用意し、充実させていく。
- 3)「広報ひらつか」、「市のホームページ」に加え、「告知パンフレット」等を用いて市と団体が役割を分担し、広報活動を行っているが、市の広報ツール(「広報ひらつか等」)に関しては、情報開示にルールがあり、市民への周知が少々、遅れることになる。その為、団体側の広報ツールである「パンフレット」等を市の広報ツールよりも先行して作成、配布等を行うことで、参加者への情報提供を早めていく。

【アンケート結果】

- ※ 当日に参加者が記載したアンケートの結果は「別紙」を参照

以上

平成29年6月3日 平塚市協働事業 第1回 アンケート集計結果

参加人数	9人
アンケート枚数	7枚

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

インターネット		0%
告知パンフレット	2	22%
広報ひらつか	1	11%
知り合いからの紹介	4	44%
JR平塚駅掲示ポスター	1	11%
行政機関の紹介、その他	1	11%
合計	9	

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか(全てお答えください)。

市の相談員による相談	2	25%
元当事者(親)による相談		0%
元当事者(子)による相談		0%
カードゲーム等のゲームコーナー	3	38%
意見交換コーナー	2	25%
ミニ・パソコン講座	1	13%
合計	8	

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。

毎月開催	1	17%
3ヶ月に一度	2	33%
半年に一度	3	50%
1年に一度		0%
その他		0%
合計	6	

平成29年6月3日 平塚市協働事業 第1回 アンケートコメント集計結果

※ 誤字脱字の修正、不明な文字の補完をしています

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

1	ぜんしんの土曜の居場所の会
2	ポスターがユニークでとても良かったです。あのポスターを見て相談してみようかという気持ちになりました

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

1	絵を描いた
2	ゆっくりできてよかった
3	初めて来る人が来やすい環境づくり
4	自分以外の意見を聞くことができとても参考になりました。ありがとうございました。

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

—	※ 回答なし(空欄回答)
---	--------------

項目4 全体の運営や進行などについて、何かご意見はございますか。

1	来場者が少ない(特に子供)
2	特になし
3	特になし
4	色々な会があると思うが、その後、講演した方や当事者の方に個別に相談できる時間を作ってほしい
5	大変参考になりました
6	和気藹々としていて、非常に良い雰囲気だと思います。同年代の若者同士、気楽に過ごせる場所は貴重なので、とてもありがたいです

項目5 今後の事業について、何かご要望などありましたらご記入ください。

1	アート系のイベント
2	特になし
3	社会に参加したくてもできない人のための支援・相談、仕事をしたくてもできない人の支援・相談。特にそれを乗り越えた人がどのように段階を踏んでいったのか気持ちの面とかを聞きたい
4	今年も是非ともゲーム大会を開催して欲しいです。例年通り今年も盛り上がるかと思っています

「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H29年・2回目)」実施報告書

- 【日 時】平成 29 年 9 月 16 日(土) 10 時から 17 時 00 分
 【場 所】平塚市青少年相談室(平塚市見附町 15 番 1 号 市民センター2 階)
 【出席者】青少年相談室: 5 名 / NPO 法人ぜんしん: 3 名
 【参加者】4 名
 【主な活動内容】青少年相談室管轄の 3 部屋に加え、同センター内文化サロン(なでしこ)を利用し、市の相談員と団体スタッフが、以下の通り、各参加者の相談に応じた。

1) 市の相談員やぜんしんの元当事者相談員による相談

- a)6 月の相談会でも個別相談を希望した若者で、家族の身だしなみが気になり、生活が息苦しいと語る男性の相談に市の相談員と元当事者スタッフが応じた。家族の問題点や相談者固有のパーソナリティ等をじっくりと伺った上で、現状を変える為の助言を行った。これを受け、相談者は、落ち着きを取り戻し、スッキリされたようだった。

2) ぜんしんの元当事者スタッフたちとの意見交換、カードゲームなど

- a)夏に離職した若者は、「今後、どのように就労に向けて振る舞っていくべきか」と悩んでおり、元当事者らが自身の経験談や就労先となり得る情報等を提供した。
 b)コミュニケーションを苦手とする参加者が多いが、カードゲームを通して打ち解け合い、電子ゲームで遊ぶことで更に積極的に他者と交流する姿が見られた。参加者同士で話し合い、遊ぶゲームを決めたり、競い合ったりと楽しみながら、交流を深めていた。

【「反省会・振り返り」内容のまとめ】

- 1)パンフレットの配布等、事業の開催告知の遅れた為、周知が行き届かず、参加者数が低迷した。
- 2)事業実施日は、台風の上陸に伴い、朝から悪天候となったことも参加者が少数になった要因とも考えられる。
- 3)フリースペースでは、カードゲームや電子ゲーム等、参加者が楽しみながら快適に過ごす為のツールが、事業を重ねるごとに豊富になって来た。
- 4)会場の入口付近に「つい立」を用意したことで、部外者から室内を覗かれることはなく、参加者から「不快」等という発言を受けることはなかった。

【問題点・今後の課題】

- 1)「持参した USB メモリー内のファイルをパソコンに取り込んだ上でパソコン講座を受けたい」と申し出た参加者に対し、ウイルス対策漏れがあり、参加者の希望に応じることが出来なかった。次回の事業実施日には、ウイルス対策をしっかりと施し、参加者の要望に応じていきたい。
- 2)参加者数が減少した為、周知方法を見直す必要がある。次回の事業実施に向けて、至急、11 月実施分のパンフレットを作成し、連携する各行政機関や団体等へ配布していく。また、ブログ等の告知時期も改める必要があると確認した。
- 3)福祉総務課向けに事業をアピールすることや行政施設に「ポスター(A3/カラー)」を掲示することで市民へ周知し、潜在的なニーズの掘り起こしを図っていく。

【アンケート結果】

- ※ 当日に参加者が記載したアンケートの結果は「別紙」を参照

以上

平成29年9月16日 平塚市協働事業 第2回 アンケート集計結果

参加人数	4 人
アンケート枚数	4 枚

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

インターネット	2	29%
告知パンフレット	1	14%
広報ひらつか		0%
知り合いからの紹介	3	43%
JR平塚駅掲示ポスター	1	14%
行政機関の紹介、その他		0%
合計	7	

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか(全てお答えください)。

市の相談員による相談	1	11%
元当事者(親)による相談		0%
元当事者(子)による相談	2	22%
カードゲーム等のゲームコーナー	4	44%
意見交換コーナー	2	22%
ミニ・パソコン講座		0%
合計	9	

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。

毎月開催	1	17%
3ヶ月に一度	3	33%
半年に一度		50%
1年に一度		0%
その他		0%
合計	4	

平成29年9月16日 平塚市協働事業 第2回 アンケートコメント集計結果

※ 誤字脱字の修正、不明な文字の補完をしています

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

—	※ 回答なし(空欄回答)
---	--------------

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

1	スッキリした。
2	ゲームがたくさんできて楽しかった。
3	「犯人は踊る」(カードゲーム)がすごく楽しかったです。 犯人の1人勝ちは難しかったです。

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

—	※ 回答なし(空欄回答)
---	--------------

項目4 全体の運営や進行などについて、何かご意見はございますか。

1	パソコン講座がなかったのでやってほしかった。
---	------------------------

項目5 今後の事業について、何かご要望などありましたらご記入ください。

1	・体をうごかすイベント。・カードゲーム大会。
---	------------------------

「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H29 年・3 回目)」実施報告書

- 【日 時】平成 29 年 11 月 18 日(土) 10 時から 17 時 00 分
 【場 所】平塚市青少年相談室(平塚市見附町 15 番 1 号 市民センター2 階)
 【出席者】青少年相談室: 5 名 / NPO 法人ぜんしん: 5 名
 【参加者】16 名
 【主な活動内容】青少年相談室管轄の 3 部屋に加え、同センター内文化サロン(なでしこ)を利用し、市の相談員と団体スタッフが、以下の通り、各参加者の相談に応じた。

1) 市の相談員やぜんしんの元当事者相談員による相談

- a) 不登校に陥り、ゲームが大好きで一日に何時間もしている姉弟を持つご両親や障がいがあり、中学 1 年頃から学校に行けない状態にあるパソコン好きの男性の保護者の相談に応じた。また、通信制の高校に通う以外は、インターネットやゲームばかりしているという男性と母親の相談にも市の相談員と元当事者スタッフが応じた。「これから先、どうしたらいいか聞きたい」という男性に対し、元当事者スタッフは、過去の経験談を交えながら助言を行ったところ男性は、表情が和らぎ、方向性が描けたように見えた。

2) ぜんしんの元当事者スタッフたちと参加者が過ごしたフリースペースの様子

- a) 最新のゲーム機を液晶ディスプレイに映し出して遊ぶスペースを設けたことで、初参加の親子が緊張せずに参加しやすい空間をつくり上げることが出来た。
 b) コミュニケーションを苦手とする参加者が今回も多かったが、けん玉、パソコンやカードゲーム等の遊びを通して打ち解け合い、自発的に他者と交流する姿が見られた。

【「反省会・振り返り」内容のまとめ】

- 1) 個別相談の予約が多数、入っていたが、午後になり、予定より早い時間に訪れた保護者への対応を求められて以降、スタッフの役割分担が、落ち着かないことがあった。
- 2) ゲームやネット依存傾向にあり問題を抱える青少年層の参加が多かった。
- 3) 意見交換や個別相談等を利用せず、フリースペース利用のみの参加者が目立った。しかしながら、子どもたちが先ず、外へ出て、きっかけをつかむ居場所というコンセプトがあるので、参加者がフリースペースの利用だけに留まったとしても事業目的を逸脱していないことを確認した。
- 4) 行政機関の各所に掲示した「告知ポスターを見た」という参加者が現れなかった。

【問題点・今後の課題】

- 1) 元当事者スタッフが、個別相談やフリースペース内で各自の役割を抜けられない場合は、「受付業務」を一時的に市の職員に依頼するように改めていく。
- 2) 事業の目的を果たすべく、ゲームやネット依存傾向にあり不登校等の問題を抱えている青少年とその保護者の参加者を引き続き、どのように増加させるかが課題となる。
- 3) 今後も行政施設に「ポスター(A3/カラー)」を掲示することで市民へ周知し、潜在的なニーズの掘り起こしを図っていくことを確認した。

【アンケート結果】

- ※ 当日に参加者が記載したアンケートの結果は「別紙」を参照

以上

不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H29年・3回目)」実施報告書

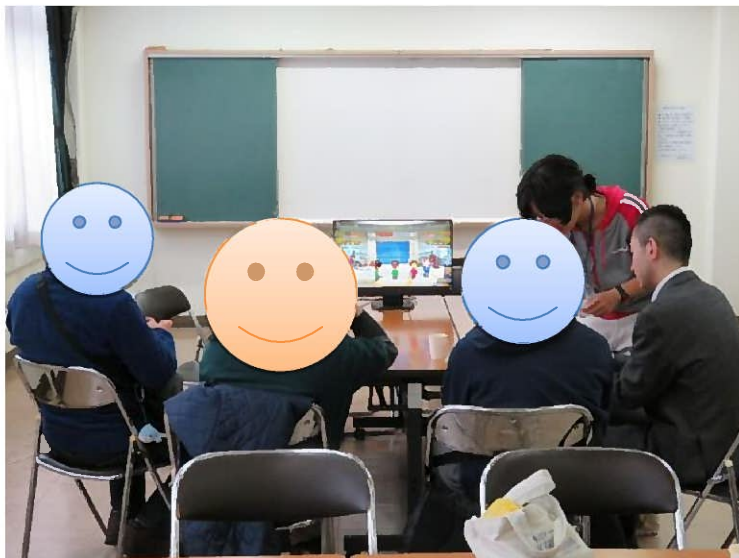
平塚市×特定非営利活動法人ぜんしん



◎ 会場受付入口



◎ フリースペース入口



◎ フリースペース内のTVゲーム(初参加の親子◎)



◎ フリースペース内のTVゲーム(初参加の親子◎)



◎ フリースペース内でけん玉を楽しむ



◎ フリースペース内でカードゲームを楽しむ

平成29年11月18日 平塚市協働事業 第3回 アンケート集計結果

参加人数	16 人
アンケート枚数	8 枚

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

インターネット	1	10%
告知パンフレット		0%
広報ひらつか		0%
知り合いからの紹介	6	60%
JR平塚駅掲示ポスター	1	10%
行政機関の紹介、その他	2	20%
合計	10	

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか(全てお答えください)。

市の相談員による相談	1	9%
元当事者(親)による相談		0%
元当事者(子)による相談	1	9%
カードゲーム等のゲームコーナー	8	73%
意見交換コーナー	1	9%
ミニ・パソコン講座		0%
合計	11	

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。

毎月開催	1	14%
3ヶ月に一度	4	57%
半年に一度	1	14%
1年に一度		0%
その他	1	14%
合計	7	

平成29年11月18日 平塚市協働事業 第3回 アンケートコメント集計結果

※ 誤字脱字の修正、不明な文字の補完をしています

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

1	中学校の先生
2	中学校の先生
3	(NPO法人ぜんしんの)柳川さんより紹介がありました

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

1	カードゲームとスイッチが出来て楽しかったです。 カードゲームで楽しかったのですが、盛り上がり欠けていたので、 盛り上げ役がいたらもっと良かったと思う。
2	楽しかった。
3	子供が楽しんでいたので良かったです。
4	なごやかに楽しいひとときをすごせたとおもいます。
5	カードゲームは大人数で楽しかった。

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

1	子供がまた参加したいと思ったら。
2	こないほうがいいのか分からなくなった。
3	子供ができるだけ多くの人とコミュニケーションをとれるようにしていきたい。 今回のようなゲームであればすぐに打ちとけられると思います。

項目4 全体の運営や進行などについて、何かご意見はございますか。

1	スタッフの方がとても気をつけて下さり、初めてでしたが、 とても楽しく過ごせました。
2	特に問題ありません。
3	特になし。
4	スタッフのかわりに利用者の方が(ゲームを)説明してくれて、助かりました。
5	楽しくすごせました。
6	分かりやすかった。

項目5 今後の事業について、何かご要望などありましたらご記入ください。

1	今日のような感じで良かったです。
2	ゲーム大会とかは、いいと思います。
3	体育系のもの。体を動かすもの。
4	普段できないゲームができたので、今後も同様に続けてほしい

「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業(H29年・4回目)」実施報告書

- 【日 時】平成 30 年 1 月 20 日(土) 10 時から 17 時 00 分
 【場 所】平塚市青少年相談室（平塚市見附町 15 番 1 号 市民センター2 階）
 【出 席 者】青少年相談室：5 名 / NPO 法人ぜんしん：5 名
 【参 加 者】16 名
 【主な活動内容】青少年相談室管轄の 3 部屋に加え、同センター内文化サロン(くすの木)を利用し、市の相談員と団体スタッフが、以下の通り、各参加者の相談に応じた。

1) 市の相談員やぜんしんの元当事者相談員による相談

- a) 高校 1 年生で不登校状態にあり、一日中、スマホとゲームをしている子どもの相談に訪れた母親に対し、元当事者が自身の経験談等を交えながら、相談に応じた。反発する子どもに対して、どのように声を掛けたいのか等、助言を行った。
 b) 本相談会の個別相談を継続的に利用している若者で、今回も家族に対する悩みと対処の仕方についての相談となった。「バイトをしようとする」と家族が資料を捨ててしまっただ邪魔をする」等の解決が困難な問題が多いが、市の相談員による計画的な助言を受けると、「やってみます！」と語り、気持ちが楽になっているように見えた。

2) ぜんしんの元当事者スタッフたちと参加者が過ごしたフリースペースの様子

- a) テレビゲームやアナログゲームをして過ごす方や、ミニ・パソコン講座で「パワーポイントを使ってみたい」という方もいた。フリースペースは、参加者にとって自由な雰囲気になっており、遊びや学びを選択できる心地よい空間になっていると思われる。
 b) コミュニケーションを苦手とする参加者が今回も多く、意見交換をするテーブルでは、「好きな音楽は？」等の各題目に対して、参加者が回答していく「ミニ講座」を受ける方も存在した。

【「反省会・振り返り」内容のまとめ】

- 1) ポスターを見て参加する方が少なく、その効果が気になる。
- 2) 常連と呼べる参加者があり、彼らが定着する反面、新規利用者が少なかった。
- 3) 相談員やスタッフの役割分担、フリースペースの配置(居場所づくり)に加えて、当日に実施するコンテンツを安定して展開できるようになって来た。

【問題点・今後の課題】

- 1) ポスターを含め、利用者を多く募る為の方法を検討する必要がある。
- 2) 常連の参加者が、次のステップに進めるように（家から出て来ることができた目標に向かえるように）、新たな仕掛けを施すことも必要と考えている。
- 3) 新規の利用者を募るべく、引き続き、行政機関等にてポスターを掲示することやweb上で情報を提供する等して、市民へ事業を周知し、潜在的なニーズを掘り起こす。

【アンケート結果】

※ 当日に参加者が記載したアンケートの結果は「別紙」を参照

以上

平成30年1月20日 平塚市協働事業 第4回 アンケート集計結果

参加人数	8 人
アンケート枚数	7 枚

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

インターネット	3	38%
告知パンフレット		0%
広報ひらつか		0%
知り合いからの紹介	4	50%
JR平塚駅掲示ポスター		0%
行政機関の紹介、その他	1	13%
合計	8	

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか(全てお答えください)。

市の相談員による相談	1	7%
元当事者(親)による相談		0%
元当事者(子)による相談	2	13%
カードゲーム等のゲームコーナー	5	33%
意見交換コーナー	5	33%
ミニ・パソコン講座	2	13%
合計	15	

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。

毎月開催	5	71%
3ヶ月に一度	2	29%
半年に一度		0%
1年に一度		0%
その他		0%
合計	7	

平成30年1月20日 平塚市協働事業 第4回 アンケートコメント集計結果

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

1	(NPO法人ぜんしんの)柳川さんからすすめられて来ました
---	------------------------------

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

1	色々なゲームが遊べて楽しみながら過ごせた
2	普段できないゲームをやったり、他の人の話を聞いてとても良かったです。
3	たくさんの人とコミュニケーションできて良かった。 パワーポイントを体験できて良かった。
4	様々な話が聞いて、大変ためになりました。
5	家族のほうれんそうができて、少し心が軽くなった。

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

1	相談したいと思った時に、時間をおかず(長い期間待たずに) 相談できる事がとてもありがたいです。
2	コミュニケーション能力とパソコンスキルを向上させたい。
3	市の人の意見やいろんな歳の人といろいろはなせてよかった。

項目4 全体の運営や進行などについて、何かご意見はございますか。

1	事前に予約でき、長時間の相談が出来て、とても助かりました。
2	前回とくらべて今回はみんな楽しくできたんじゃないかなと思いました。
3	とても丁寧でしっかりした進行だったので、過ごしやすかったです。
4	もう少しカードゲームしたかった。

項目5 今後の事業について、何かご要望などありましたらご記入ください。

1	参加者の懇親会
---	---------

平成29年度実施協働事業 決算報告書

項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
市の支出	211,000	211,000	0	
団体の支出	4,980	15,642	10,662	増加理由：事業告知用のポスターを複数枚、製作した為
事業収入	0	0	0	参加費は徴収しない
収入合計	A 215,980	B 226,642	B-A 10,662	
項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
謝金	134,000 (134,000)	134,000 (134,000)	0	総括責任者(産業カウンセラー/心理相談員):7.5H×4日×1人×1,000円 同責任者の講座プログラムや資料等の作成・準備および広報活動費:5H×10日×1人×1,000円 元当事業者スタッフ:7.5H×9人×800円
事務用品費	29,040 (29,040)	18,568 (18,568)	△10,472	プリンター用インク代:7,316円、角2封筒:4,254円、文房具類:4,717円、遊具類:2,281円 ※増減理由:印刷製本費の高騰にて支出を抑える
印刷製本費	14,000 (14,000)	35,419 (24,552)	21,419	告知パンフレット/A4カラー:1,000枚×4回、ポスター/A1カラー:1,730円×9枚+版代 ※増減理由:ポスター(当初予算外)が計上された為
旅費・交通費	14,360 (14,360)	14,980 (14,980)	620	元当事業者スタッフの交通費:1,300円×2、1,240円×2、1,040円×3、960円×4、480円×3、1,300円×2ほか
通信運搬費	19,600 (19,600)	18,900 (18,900)	△700	告知パンフレットの郵便代140円×135 ※減額理由:訪問による手渡しを行った為
食糧費	4,980 (0)	4,775 (0)	△205	参加者に提供するお茶菓子代:1,153円+1,071円+1,134円+1,417円 ※団体の会計より支出
支出合計	C 215,980 (211,000)	D 226,642 (211,000)	D-C 10,662	
③ 収支決算額	B 226,642 円	- D 226,642 円	= 0 円	【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や匡・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人ぜんしん	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	不登校やひきこもりに悩む親子を対象に団体が得意とするゲーム等を切り口とする手法を用いて元当事者親子の姉妹と市の相談員がフリースペースを設け、挫折や回復の体験談や支援機関の専門情報を提供する等し、彼らの状況改善・自立を支援する事業目的を共有することが出来た。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	当初、掲げた計画通り、団体と市による適正な役割分担のもとに事業は実施された。 だが、3回目の事業実施時に参加者が目標人数を上回ったことで、相談等に対応する団体と市のスタッフが不足する問題が生じた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	事前の準備段階から、団体スタッフと市担当職員によるミーティングを定期的に重ね、参加者情報の共有、会場備品等を双方で入念に確認した上で事業に臨むことが出来た。更に、事業終了後に双方で振り返りの時間を十分に設け、今後の事業展開で要する改善点等の情報共有を図った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	団体と市は、互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。 双方が抱える疑問点や生み出されたアイデアは、速やかな話し合いのもとに疑問の払拭、アイデアの採用となる等、互いが対等な立場で快く事業を展開することが出来た。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体が単独で事業を実施した場合は、より多くの市民へ参加を募るには限界がある。本事業では、「広報ひらつか」等で広範な周知協力を経たことで、想定以上の市民へ支援の手を差し伸べることが出来た。更に、市と協働したことにより団体の支援活動の信頼性が高まったと考えている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	参加した親子の問題改善、自立を支援する目的は、別紙のアンケートにあるように参加者のご意見から達成されたと考えている。また、目標として掲げた、「成果目標値（参加人数 32 名に対し、実参加人数合計 37 名）」も目標を上回り、達成することが出来た。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	想定した予算の中で、事業を実施したが、目標を上回る親子が参加したことに加え、別紙のアンケート回答にある参加者のコメントからも満足度は高いことから、費用に見合うサービスは十二分に提供できたと考えている。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	5	別紙『アンケート』では、「普段できないゲームをやったり、他の人の話を聞いてとても良かったです」、「スタッフの方がとても気をつけて下さり、初めてでしたが、とても楽しく過ごせました」、「(本事業を)毎月、開催して欲しい」等の声も多く、受益対象者から高い評価を頂けた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市内にある既存の行政部門や関連する市民活動団体等で悩みの解決策を見出せない当事者親子の問題改善、自立(回復)へ向けたきっかけを提供できた。
団体のメリット	活動スペースの確保だけでなく、行政による広範な周知協力を得られた。また、協働事業の受託団体として信頼度が高まり、活動がしやすくなった。
市のメリット	市内諸機関で解決策を得られない相談者へワンストップで、支援の手を差し伸べることが出来、また、元当事者による挫折や回復談等の有益な支援情報を得られた。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後、参加者が増えた場合、団体と市において以下の対応策を検討している。

- a) 主として団体の課題：人員の確保(ボランティアを含め)
- b) 主として行政の課題：待合スペースや自由に過ごせる会場の確保

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・ 本事業で市の担当職員と共有した支援情報を団体の定例活動でも活用していく
- ・ 団体の支援内容を紹介する「説明会」等を開催し、当該事業の周知を行い、利用者増を図る
- ・ 継続して市担当職員と連携し、当団体の定例活動等へ当事者を紹介いただく等して、財源を確保しながら支援活動を継続していく

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	健康・こども部 青少年課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	不登校・ひきこもりの悩みを抱えた子どもと保護者にフリースペースを市の施設内に設け、NPO法人の元当事者と市の青少年相談員が協働して、子ども達とコミュニケーションを図りながら、挫折・回復の体験談を交えたアドバイス等の提供による改善・自立支援という目的を共有した。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	役割分担は適正であったが、第3回目の事業では参加者が増え、行政側が用意したスペースやNPOスタッフのやり繰りに苦労した。次年度では、この点を踏まえ、待合スペースやスタッフ等の確保を措置した。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	担当課職員とNPO法人スタッフによるミーティングと事前準備に多くの時間を割き、十分な準備のもと、事業に臨むことができた。又、各回事業終了後の振り返りにも十分な時間を設けて以降の計画に反映させた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	担当課とNPO法人ときちんとした役割分担の基に、事業を実施し、事前・事後のミーティングでは双方忌憚ない意見を出し合い、フィードバックしながら事業を進めることができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	双方の得意分野・強みを活かすことができた。青少年相談職員の率直な意見・感想として、NPO法人の元当事者の実体験に基づくアドバイスや寄り添う言葉は現に悩みを抱える当事者の心に深く響くものであり、今後の相談スキル向上に反映できる貴重な情報となった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	全4回を合わせた参加者数は、目標を上回り、別紙アンケート意見にもあるように、参加者から肯定意見・高い評価を多くいただいた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	計画した予算範囲内で、目標を上回った参加者があり、アンケート結果からも参加者の満足度は高い。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	別紙アンケートのとおり、参加者の満足度が高く、本事業を「毎月、開催して欲しい」等の声もあり、受益対象者から概ね、高い評価を頂けた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市内にある既存の行政機関や民間活動団体だけでは悩みの解決策を見出せなかった当事者親子の自立(回復)へ向けての改善の一步となった。
団体のメリット	活動スペースの確保だけでなく、行政の広範な広報協力を得られた。また、市との協働事業となることで団体への信頼度が高まり、活動しやすくなった。
市のメリット	市内諸機関で解決策を得られない相談者へワンストップで、支援の手を差し伸べられ、元当事者による挫折・回復経験談等の貴重な支援情報を得られた。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後、参加者が増加した場合の対応の検討

- a) 主として団体側課題：人員の確保(ボランティアを含め)
- b) 主として行政側課題：待合スペースや自由に過ごせる会場の確保

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・ 団体と共有した支援情報を相談事業で活用していく。
- ・ 今後も連携を継続し、団体の定例活動等と市の相談事業の相互乗り入れを検討していく。
- ・ 団体の継続的活動への効果的支援を検討する。
- ・ 最終目標として、当事者の就学・就労等の社会復帰・自立への支援策を協力して模索する。

B：「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A：自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	特定非営利活動法人 ぜんしん	担当課名	健康・こども部 青少年課
事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事業実施に向け、事前準備や事後の振り返り等において市の担当職員と団体スタッフが多く時間を割いて、意見交換を行った。双方で「十分な協議」を重ね、「目的共有」、「役割分担」について、共通の認識を持ちながら事業に取り組むことが出来た。

市の担当職員と団体スタッフは、予定していた役割分担のもとに互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。事前・事後のミーティング内容も速やかに事業に反映され、互いが「対等な立場」で快く事業を展開することが出来た。

「相互評価や波及効果」については、市と団体が互いの強みを活用できたことに加え、新たな支援メニューとして多くの市民にアピールできたこと等から「波及効果」は高いと考えている。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

「目的・目標の達成」については、「成果目標値と定めた参加人数32名に対し、実参加人数が37名」と上回り、また、別紙アンケート回答にもあるように、参加者から肯定意見や高い評価を多く頂けたことから目的・目標は達成されたと考えている。

「費用対効果」については、計画した予算範囲内で事業を実施したが、目標を上回る人数の親子が参加したことに加え、別紙のアンケート回答にある参加者のコメントからも満足度は高いことから、費用に見合うサービスは十二分に提供できたと見ている。

「受益者サービス」については、別紙アンケートの通り、参加者の満足度が高く、本事業を「毎月、開催して欲しい」等の声もあり、受益対象者から概ね、高い評価を頂けたと判断している。

評価の流れ A：「自己」評価シート → **B：「相互」評価シート** → C：審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

「市民のメリット」については、市内にある既存の行政部門や関連する市民活動団体等で悩みの解決策を見出せない当事者親子(市民)に対して、問題改善、自立(回復)へ向けたきっかけを与えることが出来た。

「団体のメリット」としては、活動スペースの確保だけでなく、行政による広範な周知協力を得られた。また、協働事業の受託団体として信頼度が高まり、活動がしやすくなった。

「市のメリット」については、市内諸機関で解決策を得られない相談者へワンストップで、支援の手を差し伸べられ、元当事者による挫折・回復経験談等の貴重な支援情報を得られたことが挙げられる。

(4) その他、課題やその改善方法など

第3回目の事業実施時に想定していた参加者数を超えた親子が会場に訪れた為、参加者へ対応する「スタッフが不足する」といった課題が見つかった。

その為、3年目以降の事業実施時において、団体と行政双方にて以下の対応を検討している。

a) 主として団体側課題：ボランティアを含めた人員の確保(増員を計画している)

b) 主として行政側課題：待合スペースや自由に過ごせる会場の確保

(会場が、市民センター2階の青少年相談室から青少年会館へ移転するが、今まで通り、スペースを確保できるようにしていく)

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (■提案型 □提案型以外)

□休止または終了

□行政が単独で実施

□団体が単独で実施

□その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・ 団体と市が共有した支援情報を各々の事業・活動に活用していく
- ・ 市は、提案型協働事業が30年度で終了するが、31年度以降も委託事業として継続する意向がある。また、市施設等での就労ボランティアの事業へも関わっていきたいと考えている
- ・ 今後も連携を継続し、団体の定例活動等と市の相談事業の相互乗り入れを検討していく
- ・ 団体は、自団体の支援内容を紹介する「説明会」等を開催し、当該協働事業の周知を行い、より多くの当事者親子(市民)が参加できるように呼びかけていく
- ・ 最終目標として、当事者の就学・就労等の社会復帰・自立への支援策を協力して模索する
- ・ 本協働事業に参加した親子が、自立に向けて更なる支援を求めた場合、団体の定例活動等へ誘い、個別相談ほかのプログラムを利用して頂くことで、財源を確保しながら支援活動を継続していく

平成29年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団体名	特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター	
団体代表者	坂田 美保子	印
事業担当課名	平塚市市民部協働推進課	
事業担当課長	曾我 一章	印

平成29年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	ひらつか市民活動センターの協働運営事業		
事業開始年度	平成 29年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	4,091,819 円	内 訳	市の支出 3,970,000 円 ----- 団体の支出等 121,819 円
事業の概要	<p>ひらつか市民活動センターの3年間の段階的民営化の初年度として、市と団体の協働運営による引き継ぎと、主に相談コーディネート機能の強化を目標として団体支援機能の強化を図った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 多様なネットワークを活用し、団体のニーズに即した柔軟な相談対応 団体活動に必要な情報収集と分析及び発信 市民活動センターの事業企画運営、窓口対応（3名配置） 団体スタッフと、市スタッフ、協働推進課職員と共に日々相談・情報交換しながらセンター運営に努めた。 		
具体的な実施内容	<ol style="list-style-type: none"> センター窓口業務の引継ぎ（団体スタッフ3名、市スタッフ8名） <ul style="list-style-type: none"> 1日2交代制（日勤・夜勤）常時2名（1日4名）体制。 団体スタッフ1か月約30回勤務 市スタッフ1か月約90回勤務 既存事業の実施と引き継ぎ <ul style="list-style-type: none"> 団体向け講座5事業 計77名参加 キャッチコピー講座、助成金の基礎講座、クラウドファンディング講座 初歩の会計講座、パワポで作る動画講座 市民活動ボランティア啓発事業6事業 計1,950名参加 高浜高校ボランティア講演会、学生ボランティア、ユースボランティア、市民活動センターまつり、ボランティア&市民活動見本市、地域出向き講座 IT講座、IT相談会4事業 計293名参加 Wordでチラシ作成講座、ホームページ作成講座、パソコン相談会 パソコン交流かふえ 団体交流事業1事業 21名参加 新春団体交流会 		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

3. 協働運営による新規事業の実施

(1) 「協働運営スタート交流会」(6/18)参加者 42名 18団体

(2) 相談機能の強化

・相談件数 211件 (H28年度 176件) 前年比 35件、20%増。

相談内容	登録団体	登録外団体	一般	合計
市民活動団体を知りたい	3(3)	3(2)	24(26)	30(31)
ボランティアをしたい	0(1)	0(0)	38(40)	38(41)
団体を作りたい	0(0)	2(3)	7(9)	9(12)
センター利用相談	4(3)	17(14)	7(18)	28(35)
団体運営相談	35(8)	11(1)	0(0)	46(9)
助成金の情報を知りたい	7(1)	3(0)	2(0)	12(1)
NPO法人を設立したい	2(0)	4(1)	3(3)	9(4)
その他	7(8)	1(5)	31(30)	39(43)
合計	58(24)	41(26)	112(126)	211(176)

※ () 内は H28 年度実績。

課題であった登録団体・登録外団体からの相談が増えた 49 件、98%増特に、団体運営 (37 件、411%増)、助成金 (11 件、1100%増)、NPO 法人設立 (5 件、125%増) の相談が増え、団体支援につながった。

・「相談に関するアンケート(5月)」の実施

回答 141 人、81 団体。相談に対するニーズを把握し、相談体制の強化につなげた。

・「専門相談コーナー」7月開始 月2回 (第2火曜・第3木曜)

専門相談件数 16 件 (継続 3 団体) 運営に関する相談が多く、アンケート結果からも概ね好評、相談コーナーの常設を希望する声が多かった。

(3) 「居心地の良い場のつくり方」2回連続講座定員 30 名、参加者(12/23) 45 名、(1/20) 39 名。各回とも満足度 97%超、他市からも参加をいただくなど反響も大きく市内外の団体同士の情報交換も活発に行われた。

(4) NPO と企業の交流ミーティング (3/9) 参加 14 団体 21 名、企業 8 社

(5) 協働運営報告会 (3/30) 参加団体 5 団体

(6) 情報発信機能の強化

・ボランティアチームによる情報発信機能強化の検討

ホームページ・情報紙のリニューアルによる情報発信の強化について、市民活動団体からボランティアを募集 (11 名)、HP チームと情報紙制作チームに分かれ、調査研究を進めた。

・センターホームページのリニューアル (3月末)

団体のイベント情報や会員募集のコーナーを設け、より多くの方に情報を発信できる仕組みとした。スマホやタブレットにも対応しているため若い世代への発信が期待できる。

・情報紙のリニューアル (3月末)

誰もが手に取り読みたくなる情報紙をコンセプトに紙面デザイン、記事内容を検討し、全面カラー化し、市民活動団体の取材記事を大きく取り上げるなどの工夫を行った。

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上

平成29年度実施協働事業 決算報告書

項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収入				
市の支出	3,970,000	3,970,000	0	負担金 3,970,000 円 12月21日契約変更 (+870,000 円) ※HP制作追加のため
団体の支出	60,800	14,819	▲45,981	会費より充当
事業収入	90,000	107,000	17,000	講座収入 (参加者受講料) キヤッチコピィ¥7,500、クラウドファンディング¥10,500、会計¥10,000、場づくり講座¥79,000
収入合計	A 4,120,800	B 4,091,819	B-A ▲28,981	
② 支出				
項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
人件費	2,634,000 (2,634,000)	2,635,250 (2,635,250)	1,250	給与 3名分¥2,505,750+ニーズ調査費¥28,500+スタート交流会協力費¥15,000+企画費¥14,000+センター日より編集残業手当¥6,000+事業費 (チーム活動費¥30,000) + (総務管理・事業管理費¥36,000)
旅費交通費	228,000 (228,000)	205,026 (205,026)	▲22,974	旅費交通費¥202,922+新スタッフ交通費¥2,104
研修費	49,000 (49,000)	54,321 (54,321)	5,321	研修参加人件費¥33,500+研修旅費¥20,821
労災保険料	6,000 (6,000)	4,500 (4,500)	▲1,500	労災保険料¥4,500
講座開催費	160,000 (70,000)	161,860 (90,000)	1,860	講師謝金¥20,000(スタート交流会)、¥90,000(場づくり講座¥45,000(3H)×2回)、支払い手数料¥987、交流会お茶代¥873、チラシデザイン印刷委託 (¥10,000×5種類)
相談事業費	90,000 (90,000)	47,812 (47,812)	▲42,188	専門相談人件費¥30,000 (¥2,000×15H)、交通費¥7,812、企画・資料作成費¥10,000 (¥1,000×10H)
調査研究費	28,800 (0)	50,500 (17,405)	21,700	チームボランティア活動費¥50,500
情報発信費	55,000 (23,000)	44,840 (28,840)	▲10,160	情報紙印刷費¥8840、デザイン費¥20,000、情報スペースリース PC ¥16,000
HP制作費	870,000 (870,000)	887,710 (887,710)	17,710	HP 作成費¥870,000、サーバー、ドメイン使用料¥16,846、支払い手数料 ¥864
支出合計	C 4,120,800 (3,970,000)	D 4,091,819 (3,970,000)	D-C ▲28,981	
③ 収支決算額	B 4,091,819 円 - D 4,091,819 円 =	0 円		【備考】

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人湘南 NPO サポートセンター	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	ひらつか市民活動センター協働運営事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	○よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	お互い共通の目的に沿って事業を実施できたと考えている。相談業務の強化、センター業務の引継ぎ、既存事業の引継ぎ等、常に共有しながら進められた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	適正な役割分担であった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	細々とした日常の問題については、即時に相談・協議することができた。勤務がシフト制のため、スタッフ間の情報共有が難しい面もあった。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	立場を尊重していただいたと思う。反対に団体としても市の立場を考慮しながら実施できたと思う。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	互いのノウハウを提供し合いながら事業を行うことが出来た。波及効果については調査しきれていない。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	相談件数の目標 20%増が達成できた。下期にホームページ制作が入ってきたため、相談ケース会議が1回しかできなかったが、次回につなぐきっかけとなった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	勤務内で仕事が終わらず、自宅作業をしてもらったことがあったが、メンバーには理解してもらいながら進めることができた。情報紙改定、ホームページのリニューアルについて、ボランティアの協力を得られたことが良い結果につながった。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 専門相談の結果や事業実施後のアンケート結果から、概ね満足をいただけたのではないかと思います。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市民目線・専門性を活かした柔軟な相談対応、助言提案は団体にとって安心感があり心強い。交流事業は多様なセクターとの出会いにより活動の活性化が期待できる。
団体のメリット	市民活動センター運営事業が加わることで、より多くの団体から信頼を得ることが出来る。平塚市との協働を実施することで多方面からの信用と信頼が担保される。
市のメリット	当事者性・専門性を活かした中間支援組織としての機能を活かすことによって、これまで課題とされてきた諸処の問題の解決が進み、市民活動の活性化が進むと考える。

(4) その他、課題やその改善方法など

30年度は新規スタッフも増えるため、人材育成が鍵。研修と実践を行いながら進めていく。新情報紙を自治会にも配布する予定で調整中、広報紙を通して市民活動と地域活動の連携・融合を図っていく。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

情報紙・ホームページを活用した情報発信の強化を積極的に進めると同時に、多様な組織との連携・ネットワークを構築するため、事業や渉外活動を通して拡大していく。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	協働推進課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	ひらつか市民活動センター協働運営事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	3年間の協働運営による段階的民営化で、市民活動団体の支援機能を強化するという目的、初年度の目標として相談コーディネート機能の強化、センター基本業務、既存事業の引継ぎを行うことを常に確認し共有できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	概ね予定通りの役割分担で実施できた。ホームページのリニューアルについては、その必要性から予定を前倒しして、29年度に実施したため、団体の負担が増えてしまった。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	市民活動センターにて、一緒に業務にあたる中で、常に相談協議しながら事業を進められた。 月に1回のミーティングで、団体スタッフ、市スタッフで情報の共有、意見交換を実施した。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	協働運営による団体のノウハウを活かした団体支援ができるよう、できるだけ団体の考え方を取り入れるようにした。また、団体もこれまでの市の実施方法等について理解して、できるところから変えていくよう配慮していただいた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	団体のスキルを活かした相談機能の強化や、ボランティアの協力を得て検討したホームページ、情報紙のリニューアルなど、協働の相乗効果が得られた。 また、協働で運営することで、スムーズに引継ぎができて いる。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	初年度の目標であった相談コーディネート機能の強化について、相談件数が20%増加し、特に課題であった団体からの相談が大幅に増えるなど目標を達成できた。 また、情報発信機能強化も前倒しで実施するなど、予定以上の成果があった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	協働運営により、専門相談コーナー、企業との交流会、情報発信強化など新たな事業の実施、手法を取り入れてセンターの機能が強化され、費用対効果が高かった。 一方で、初年度は団体スタッフの勤務日数が少なく、成果に対して費用が少なすぎた面もあった。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など センター運営全体に対する利用者のアンケートは実施できていないが、相談件数が増え、各事業のアンケート結果も満足度が高かった。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	団体の当事者性・専門性を活かした相談支援や、講座、交流会等の開催により、団体の抱える課題の解決につながった。
団体のメリット	公的中間支援施設の運営に参加することで中間支援団体として、信頼性が高まった。 市スタッフとの協働運営によりスムーズに業務の引継ぎ、人材育成ができた。
市のメリット	団体の当事者性・専門性が加わったことで、市民活動センターの機能強化が進み、市民活動の活性化につながった。

(4) その他、課題やその改善方法など

段階的な民営化の過程でスタッフも入れ替わる中、センター全体の実施事業が増えていくため、マンパワーが不足する恐れがある。
スタッフの人材育成を進めるとともに、既存事業の見直しも進めていく。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (■提案型 □提案型以外)

□休止または終了

□行政が単独で実施

□団体が単独で実施

□その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

3カ年の協働運営で着実に民営化を進めていきながら、リニューアルされたホームページ、情報紙を活用した情報発信の強化、多様な主体との連携ネットワークの強化により、市民活動センターの支援力を高めていきたい。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター	担当課名	協働推進課
事 業 名	ひらつか市民活動センター協働運営事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

評価点については、「相互効果や波及効果」の評価点が異なるが、波及効果について全体的な把握ができていないことを評価点に反映したかの違いであり、双方の見解に相違がないことを確認した。

協働で運営しているので、日常的に協議を行える環境があり、対等な立場で十分に協議ができていたが、シフト勤務のため、団体・市スタッフ全体の情報共有については、月1回のミーティングだけではしきれないという課題もある。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

各項目の評価点、評価の理由は双方一致していることを確認した。

費用対効果については、費用に対して大きな成果は上げられたので「5」をつけてもいいと思ったが、逆に成果に対して費用が適正だったかという視点で見ると、自宅作業が発生するなど十分ではなかったとも言えるので「4」としている。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民・団体・市のメリットについて、双方の考え方は一致していた。
協働により段階的に民営化を進めるメリットとして、既存の運営方法を引き継ぎながら、団体の視点で、良い点、改善が必要な点をじっくりと検討することができたので、今後の運営に生かしていくことを確認した。

(4) その他、課題やその改善方法など

新しいスタッフも増えていくことから、人材育成に力を入れていくことを双方課題として共有している。地域活動との連携など新しい事業の充実を図るとともに、事業の整理をおこなっていく。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

3カ年の協働運営で民営化を進める。2年目以降は、情報発信、多様な主体とのネットワークを強化して市民活動センターとしての支援力を向上していくことを確認した。